



筒井 俊秋 議員

Q. 自主防災組織の現状は A. 小学校区単位で設立

Q 伊勢湾台風から50年を迎える。自ら情報を集めて近所で助け合う、自助防災が基本である。自主防災組織が小学校区単位で発足したが、現在各自治会単位の自主防災組織の現状を問う。また、愛知県下の組織率はどうかを問う。

自主防災会の4つである。防災を担う人材育成は、今年度設立された各小学校区の自主防災組織で行う防災訓練及び各地区の自主防災会で行う防災訓練をとおして人材育成を行う。そのため、町からの支援についても引き続き行っていく。

A 各自治会単位の自主防災組織の現状は、青塚第2地区、豊山分譲住宅地区、西之町第1地区と名栗第1地区

愛知県下の市町村の平均組織率については、98.8パーセントである。本町においては、組織率は100パーセントである。



地区代表で行った防災訓練

Q. 交通安全について問う

A. 引き続き定期信号機 の設置要望をしていく

Q 町道6号線と町道58号線(富士地区)の点滅信号交差点は、事故が多発している。今年6月にも救急車、消防車、ドクターヘリも出動した事故が発生した。数日後に、運転者が死亡。この交差点は毎年事故が多発し、死者も出ている。以前より危険な交差点と指摘されていたが、一向に改善されていない。早急な改善を願う。

「歩行者の退避場所や、信号機の柱を建てる場所がない」ことから、現状の1灯式点滅信号機が設置された。今年6月に交通事故が発生してから、LED式の点滅信号機に変更した。その他、一時停止を促す注意看板を設置し、西と東にある他の点滅信号機の角度調整も併せて実施し、問題の交差点の信号機がより確認しやすい対策をとった。

A これまで何度も西枇杷島警察署に必要と町は判断しており、引き続き定期信号機の設置要望をしていく考えである。

更なる交通安全対策が必要と町は判断しており、引き続き定期信号機の設置要望をしていく考えである。

Q. 町長の7つのマニフェスト について聞く

A. 重要な施策は第4次総合計画で 取り組む



水野 晃 議員



町長の7つのマニフェスト

Q 町長は2期目の立候補にあたり、7つからなるマニフェストを掲げられた。7つの内の4つのテーマについて、質問する。

A 町おこし事業の推進、緊急時連絡システム、およびよやま8チャンネルについては、マニフェストにおいて言及していない。しかし、いずれも重要な施策であることから、第4次総合計画の施策として位置付け取り組んでいく。

Q 町長は2期目の立候補にあたり、7つからなるマニフェストを掲げられた。7つの内の4つのテーマについて、質問する。

A 町おこし事業の推進、緊急時連絡システム、およびよやま8チャンネルについては、マニフェストにおいて言及していない。しかし、いずれも重要な施策であることから、第4次総合計画の施策として位置付け取り組んでいく。

Q 認知症サポーターは5月末時点で、取り組みから5年目にして目標の100万人に達した。

豊山町の認知症サポーターの取り組み状況及びオレンジリングの啓蒙広報活動について問う。

A 平成18年度から認知症サポーターの普及を進めていく。

今後、商業関係者や自治会等に範囲を拡大し、地域での認知症サポーター(オレンジリング)の普及を進めていく。

Q. 認知症サポーター、 オレンジリングの啓蒙 A. 地域での認知症サポーター の普及を進める

Q 認知症サポーターは5月末時点で、取り組みから5年目にして目標の100万人に達した。

豊山町の認知症サポーターの取り組み状況及びオレンジリングの啓蒙広報活動について問う。

A 平成18年度から認知症サポーターの普及を進めていく。

今後、商業関係者や自治会等に範囲を拡大し、地域での認知症サポーター(オレンジリング)の普及を進めていく。